

2016年（平成28年）の日本の天候（速報）

2016年（平成28年）の日本の天候の特徴：

高温が持続し、年平均気温は東日本以西でかなり高く、北日本で高い
北日本の秋を除き、全国的に高温傾向が続き、年平均気温は、東・西日本、沖縄・奄美でかなり高く、北日本でも高かった。特に東日本では、平年差+1.0と1946年の統計開始以降で2004年と並び、最も高かった。年降水量は、西日本、沖縄・奄美でかなり多く、北日本でも多かった。年間日照時間は北日本と東日本日本海側で多く、西日本日本海側で少なかった。

8月に北日本に4個の台風が上陸
北日本では、8月に台風第7号、第11号、第9号、第10号が相次いで上陸し、大雨や暴風となった。特に北海道と岩手県では記録的な大雨となり、河川の氾濫、浸水害、土砂災害などが発生した。

秋に西日本で顕著な多雨寡照
秋は、低気圧や前線、台風の影響を受けやすく、西日本中心に全国的に日照時間が少なかった。西日本では、降水量もかなり多かった。

本資料は、全国154地点の気象台等における12月20日までの観測データをもとに、速報としてまとめたものです。12月31日までの観測データによる資料は平成29年1月4日に発表します。

1 概況

2016年は、北日本の秋を除き全国的に高温傾向が続いた。冬や秋は、西日本以西を中心に低気圧や前線の影響を受けやすく、8月は北日本に台風が相次いで上陸するなど、降水量が多くなる時期があった。また、秋は西日本で記録的な寡照となった。

冬は、後半に寒気の影響を受けた時期もあったが、冬型の気圧配置は長続きしなかったため、全国的に気温が高く暖冬となった。特に、東・西日本の冬の平均気温はかなり高かった。低気圧や前線の影響で、全国的に降水量が多かった。特に沖縄・奄美では、冬の降水量が平年比188%となり、1947年の統計開始以来の最も多かった。日本海側の冬の降雪量は、冬型の気圧配置が長続きしなかったため、ほぼ全国的に少なかったが、1月下旬の強い寒気の影響で、九州北部地方ではかなり多くなった。

春は、日本の南と日本の東で高気圧が強く、南から暖かい空気が流れ込んだため、春の平均気温は全国的にかなり高かった。春の降水量は、4月に低気圧や前線の影響を受けやすかった西日本太平洋側と沖縄・奄美では多くなった。一方、3月と5月に移動性高気圧に覆われて晴れる日が多かった北日本太平洋側では少なく、東日本日本海側ではかなり少なかった。また、春の日照時間は、東日本日本海側ではかなり多く、北・西日本で多かった。

夏は、日本付近は暖かい空気に覆われやすく、全国的に夏の平均気温は高かった。特に、沖縄・奄美では、日照時間が多く強い日射を受けて、夏の平均気温は平年差+1.1と1946年の統計開始以降、最も高かった。北日本では、6月は低気圧の影響を受けやすく、8月は台風が相次いで接近・上陸したことや前線や湿った気流の影響で、降水量がかなり多かった。特に、北日本太平洋側では、夏の降水量は平年比163%となり、1946年の統計開始以降最も多かった。台風は、第7号、第11号、第9号が相次いで北海道に上陸し、第10号が岩手県に上陸した。台風の影響で、東日本から北日本を中心に、大雨や暴風となり、特に北海道と岩手県では記録的な大雨となり、河川の氾濫、浸水害、土砂災害などが発生した。夏をとおして、平均的には日本付近は高気圧に覆われやすかったため、夏の日照時間は、ほぼ全国的に多かった。

秋は、西日本と沖縄・奄美では寒気の影響が弱く、南から暖かい空気が流れ込んだため、秋の平均気温はかなり高く、沖縄・奄美で平年差+1.3、西日本で+1.2となり、統計を開始した1946年以降で最も高い記録となった。西日本では、低気圧と台風や前線の影響で、秋の降水量はかなり多く、特に、西日本日本海側で平年比173%となり、1946年の統計開始年以降で最も多かった。全国的に低気圧や前線などの影響で、秋の日照時間が少なく、特に、西日本日本海側で平年比74%、西日本太平洋側で平年比82%となり、いずれも1946年の統計開始以降で最も少なかった。北日本では9月は高温となったが、10月からは断続的に大陸からの強い寒気が流れ込んだため、秋の平均気温は2002年以来14年ぶりに低温となった。

2 気温、降水量、日照時間の気候統計値

(1) 平均気温

年平均気温は、東・西日本と沖縄・奄美ではかなり高かった。年平均気温の平年差は、名古屋（愛知県）大分（大分県）など12地点で最高値を上回っており、千葉（千葉県）京都（京都府）など25地点で最高値と同じ値となっている。北日本で高かった。

(2) 降水量

年降水量は、西日本、沖縄・奄美でかなり多く、北日本で多かった。東日本は平年並だった。

(3) 日照時間

年間日照時間は、北日本と東日本日本海側で多かった。一方、西日本日本海側では少なかった。東・西日本太平洋側と沖縄・奄美は平年並だった。

地域平均平年差（比）と階級（2016年）

	気温 平年差 (階級)	降水量 平年比 %(階級)	日照時間 平年比 %(階級)		気温 平年差 (階級)	降水量 平年比 %(階級)	日照時間 平年比 %(階級)
北日本	0.6 (+)	113 (+) 日 110 (+) 太 116 (+)	104 (+) 日 103 (+) 太 104 (+)	北海道	0.3 (0)	123 (+)* 日 114 (+) 才 141 (+)* 太 124 (+)	102 (0) 日 100 (0) 才 101 (0) 太 105 (+)
東日本	1.0 (+)*	104 (0) 日 97 (0) 太 105 (0)	103 (+) 日 106 (+) 太 102 (0)	東北	0.9 (+)*	101 (0) 日 101 (0) 太 100 (0)	106 (+) 日 107 (+) 太 105 (+)
西日本	1.0 (+)*	123 (+)* 日 120 (+)* 太 126 (+)*	99 (0) 日 98 (-) 太 100 (0)	関東甲信	1.0 (+)*	105 (0)	101 (0)
沖縄・奄美	1.0 (+)*	120 (+)*	101 (0)	北陸	0.9 (+)*	97 (0)	106 (+)
				東海	1.0 (+)*	105 (0)	102 (0)
				近畿	1.0 (+)*	112 (+) 日 104 (0) 太 115 (+)	104 (+) 日 106 (+) 太 103 (+)
				中国	0.9 (+)*	116 (+) 陰 102 (0) 陽 132 (+)*	99 (0) 陰 100 (0) 陽 97 (-)
				四国	1.1 (+)*	124 (+)	100 (0)
				九州北部	1.0 (+)*	130 (+)*	96 (-)
				九州南部 ・奄美	1.0 (+)* 本 1.0 (+)* 奄 1.0 (+)*	128 (+)* 本 133 (+)* 奄 108 (+)	99 (0) 本 98 (-) 奄 102 (0)
				沖縄	1.0 (+)*	125 (+)*	101 (0)

階級表示 - :低い(少ない) 0:平年並 + :高い(多い)
*はかなり低い(少ない)、かなり高い(多い)を表す

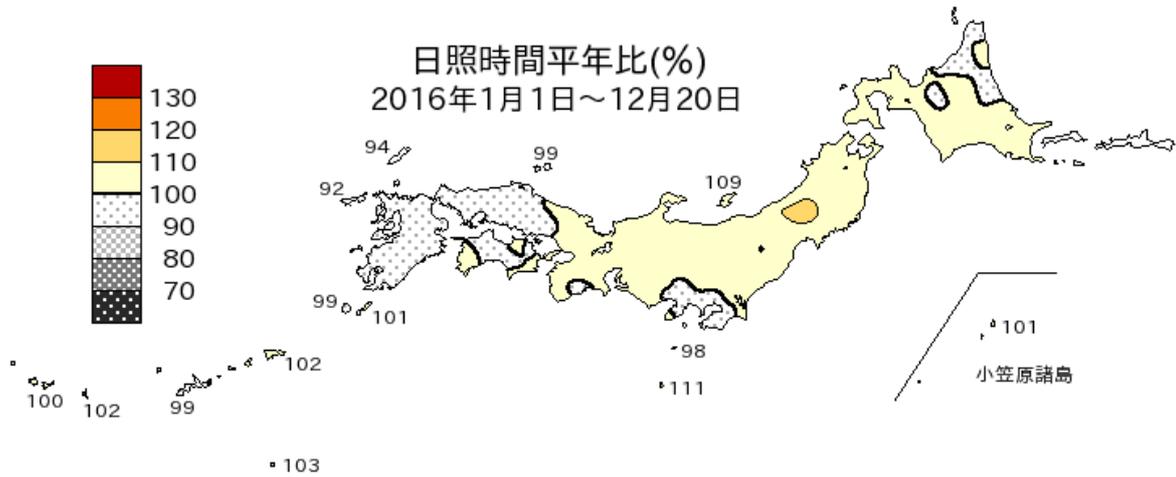
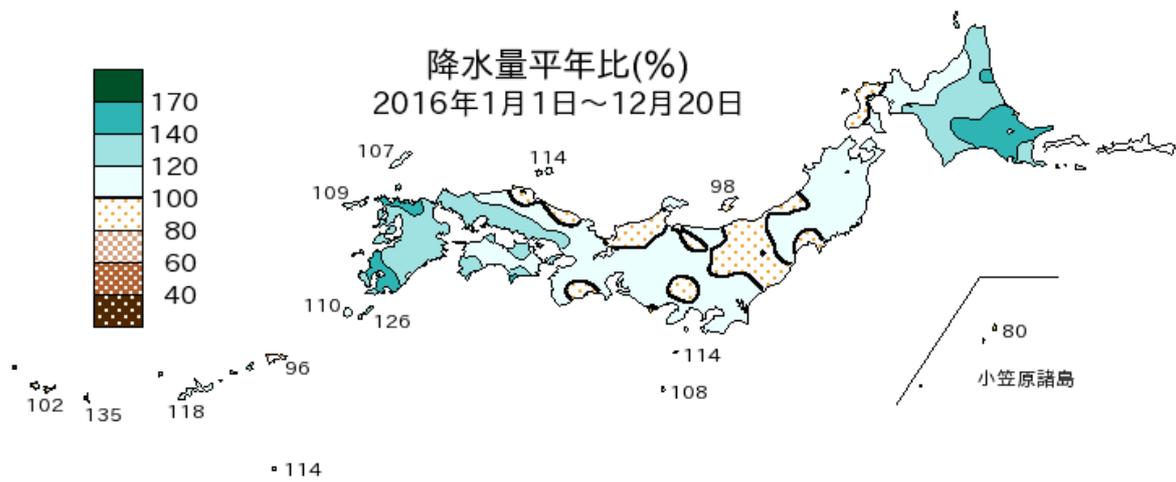
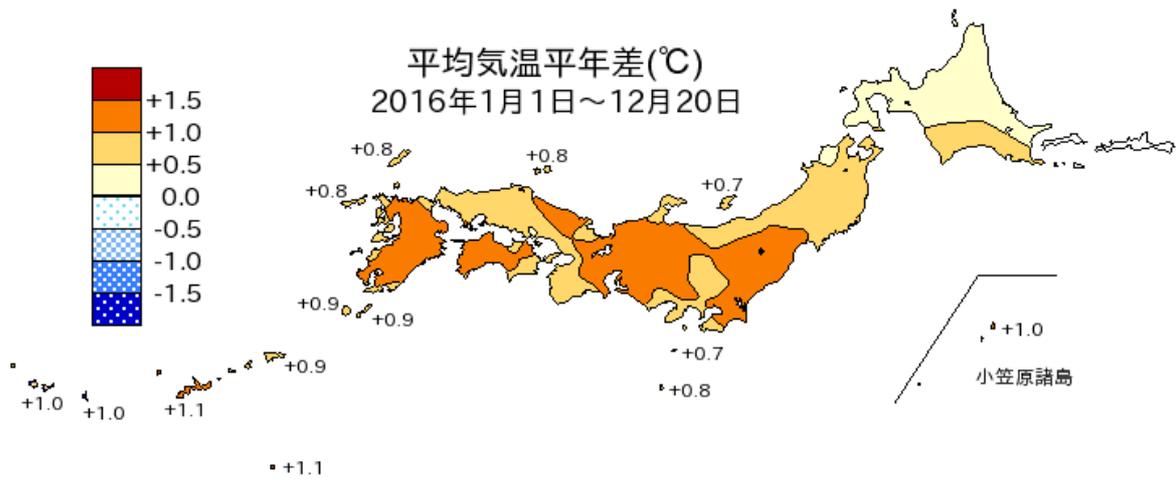
地域表示 日:日本海側 陰:山陰 本:本土(九州南部)
才:オホーツク海側 陽:山陽 奄:奄美
太:太平洋側

(注)・基礎となるデータは全国の気象台等での観測値で、観測所数は154地点である。このうち、降雪の深さ、最深積雪については、観測を行っている106地点が対象である。

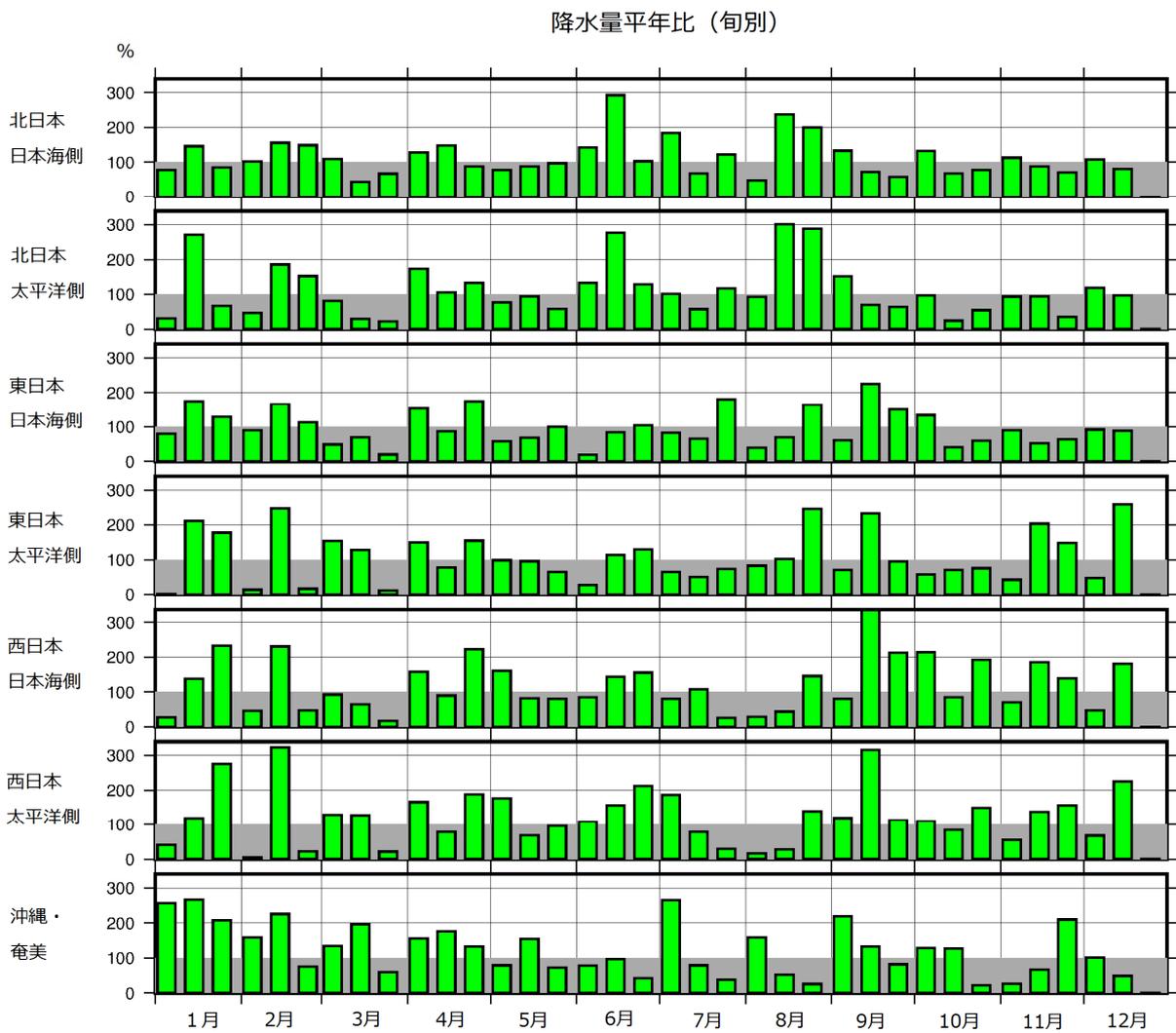
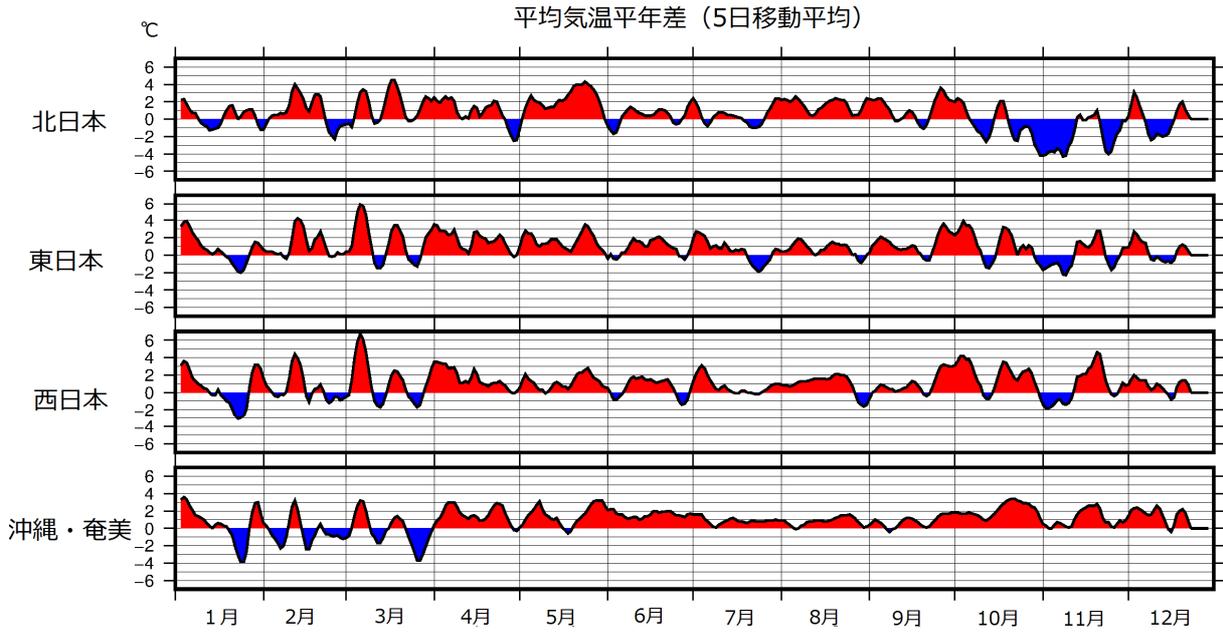
・「低い(少ない)」「平年並」「高い(多い)」の階級は、1981~2010年における30年間の観測値をもとに、これらが等しい割合で各階級に振り分けられる(各階級が10個ずつになる)ように決めている。また、値が1981~2010年の観測値の下位または上位10%に相当する場合には、「かなり低い(少ない)」「かなり高い(多い)」と表現する。

・本文中の北・東・西日本の降水量・日照時間の特徴は、日本海側・太平洋側の階級に基づいて記述している。

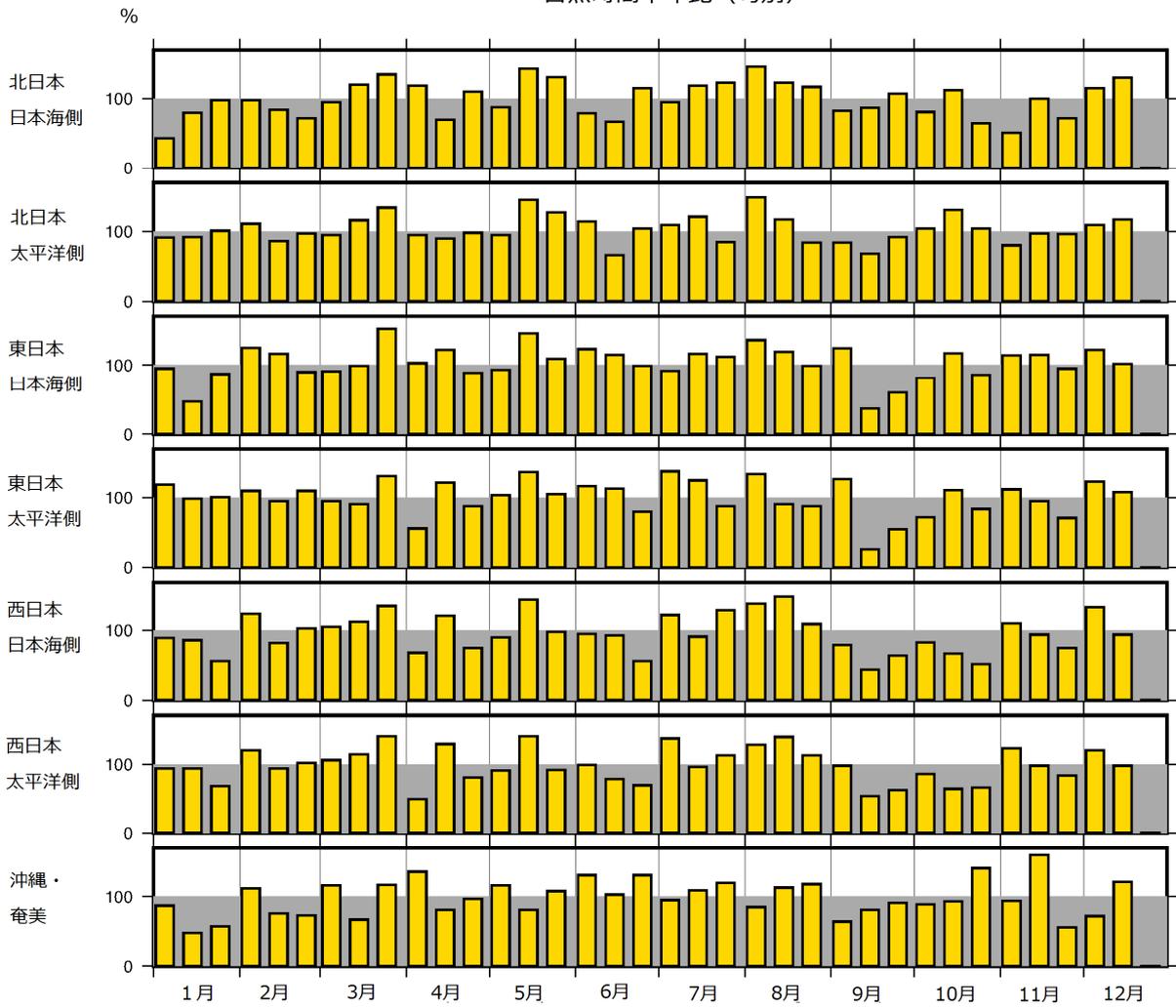
平年差（比）図（2016年）



地域平均年差（比）の経過（2016年）（12月20日までのデータによる）



日照時間平年比（旬別）



観測史上1位の値(月、3か月、年別値)の更新地点数

- ・全国154地点の気象台等の統計値の中で、観測史上1位となった地点数を記載した。
- ・値は1位を更新した地点数でタイ記録は含めない、タイ記録がある場合には「値ㄱ」として横に併記した
- ・地域は更新およびタイ記録の地点数の合計が5以上のとき記載した

	平均気温		降水量		日照時間		降雪の 深さ	最深 積雪
	最高	最低	最大	最小	最大	最小	最大	最大
1月			5 沖奄			3		1
2月	1		1		1	2		
冬	13、6ㄱ 東、西		9 西太					
3月	3、3ㄱ		8 東日					
4月	2		2					
5月	25、5ㄱ 北							
春	14、5ㄱ 東		1		1			
6月	1		6					
7月	1、3ㄱ			1				
8月	3、2ㄱ		8 北太		6、1ㄱ			
夏	7、2ㄱ 沖奄		8 北太					
9月	1		1	1ㄱ		8 西日		
10月	40、1ㄱ 西、沖奄		1		1	12 西日		
11月		1、1ㄱ				1		
秋	22、7ㄱ 西、沖奄	1、2ㄱ	2、1ㄱ	1		18 西日		
年(速報) 2016年	12、25ㄱ							

地域表示 北：北日本 北日：北日本日本海側 北太：北日本太平洋側
 東：東日本 東日：東日本日本海側 東太：東日本太平洋側
 西：西日本 西日：西日本日本海側 西太：西日本太平洋側
 沖奄：沖縄・奄美

3 季節別の天候経過

冬（2015年12月～2016年2月）:

全国的な暖冬となった

全国的に降水量が多く、沖縄・奄美では記録的な多雨となった

日本海側の降雪量はほぼ全国的に少なかった

日本付近は冬型の気圧配置が長続きせず、冬の平均気温は全国的に高く、東・西日本ではかなり高かった。特に、1月前半までは寒気の南下が弱く、気温の高い日が多かったため、12月は全国的に気温がかなり高くなった。しかし、1月後半以降は、冬型の気圧配置が強まり、強い寒気が流れ込む時期があった。特に1月23日から25日にかけては、西日本から沖縄・奄美を中心に大陸から強い寒気が流れ込み、日最低気温の低い記録を更新した地点が多数あったほか、日本海側や九州、四国でも所々で大雪となり、沖縄でもみぞれを観測した。一方、日本海を通過する低気圧に向かって暖かい南風が強まり気温が平年を大幅に上回った日もあった。このため東・西日本と沖縄・奄美では気温の変動がかなり大きくなった。

日本付近は、低気圧や前線の影響を受けやすかったため、冬の降水量は全国的に多く、西日本と沖縄・奄美ではかなり多かった。沖縄・奄美では、日照時間もかなり少なかった。また、沖縄・奄美では、冬の降水量が平年比188%となり、1947年の統計開始以来の最も多い値を更新した。気温が高かったため、日本海側の冬の降雪量はほぼ全国的に少なく、北日本ではかなり少なかった。西日本日本海側では多くなったが、近畿日本海側と山陰ではかなり少なく、1月下旬の強い寒気の影響で、九州北部地方ではかなり多くなった。

平均気温：全国的に高く、東・西日本はかなり高かった。

降水量：全国的に多く、西日本と沖縄・奄美ではかなり多かった。

日照時間：沖縄・奄美でかなり少なく、北・西日本日本海側で少なかった。北・西日本太平洋側と東日本は平年並だった。

春（3～5月）:

全国的に顕著な高温となった

西日本太平洋側と沖縄・奄美の降水量は多く、北日本太平洋側と東日本日本海側で少なかった

北・西日本と東日本日本海側の日照時間は多かった

日本の南と日本の東で高気圧が強く、日本付近には南から暖かい空気が流れ込みやすかったため、全国的に気温はかなり高くなった。4月は全国的に低気圧や前線の影響を受けやすく多雨となったが、3月と5月は北日本を中心に移動性高気圧に覆われて本州付近では晴れる日が多かった。このため、春の天候は、北日本太平洋側と東日本日本海側で、少雨・多照となり、特に東日本日本海側では、春の降水量はかなり少なく、春の日照時間はかなり多かった。一方、西日本太平洋側では4月と5月に、沖縄・奄美では3月と4月を中心に、低気圧や前線の影響を受けやすかったため春の降水量は多くなった。

平均気温：全国的にかなり高かった。

降水量：東日本日本海側ではかなり少なく、北日本太平洋側で少なかった。一方、西日本太平洋側と沖縄・奄美では多かった。北日本日本海側と東日本太平洋側、西日本日本海側は平年並だった。

日照時間：北・西日本で多く、東日本日本海側ではかなり多かった。東日本太平洋側、沖縄・奄美は平年並だった。

夏(6~8月):

全国的に暑夏で、特に沖縄・奄美では記録的な高温となった

北日本太平洋側は記録的な多雨となった

ほぼ全国的に日照時間が多かった

6月から7月にかけては、太平洋高気圧の勢力が日本の南海上で強く、沖縄・奄美では暖かい空気に覆われやすく、気温がかなり高かった。太平洋高気圧の北縁にあたった西日本付近では、西から湿った空気が流れ込み梅雨前線の活動が活発となりやすく、6月は西日本の各地方で、7月は九州を中心に降水量が多かった。東日本と東北地方では、6月は平年並の降水量となったが、7月は梅雨前線の活動が弱まり、降水量の少ない地方が多かった。北海道地方では低気圧の影響を受けやすく、降水量は6月はかなり多く、7月も多かった。

7月後半は、千島近海で高気圧の勢力が強まり、北・東日本を中心に気温の低い時期があった。一方、日本の南では高気圧の勢力が引き続き強く、沖縄・奄美を中心に気温の高い状態が続いた。

8月は、日本付近は暖かい空気に覆われやすかったため、月平均気温は全国的に高く、沖縄・奄美ではかなり高かった。その結果、夏の日照時間はほぼ全国的に多く、夏の平均気温は全国的に高かった。特に、沖縄・奄美では夏を通して気温の高い状態が続き、夏の平均気温は平年差+1.1 となり、夏として1位の高温となった(統計開始は1946年)。

一方、8月は日本の南海上で対流活動が活発になった。月の後半は、日本のはるか東で高気圧の勢力が強く、その西縁にあたる東日本太平洋側から北日本を中心に台風や湿った気流の影響を受けやすかった。特に、北日本では台風第6号、第7号、第11号、第9号、第10号が相次いで接近または上陸し、前線や湿った気流の影響も加わり、顕著な多雨となった。北日本太平洋側では、夏の降水量が平年比163%となり、夏として1位の多雨となった(統計開始は1946年)。台風の影響で、東日本から北日本を中心に、大雨や暴風となり、特に北海道と岩手県では記録的な大雨となり、河川の氾濫、浸水、土砂災害などが発生した。

なお、この夏に日本に上陸した台風は4個で、すべて8月に上陸した。8月の上陸数4は、ひと月の上陸数の多い方から1位タイとなった(統計開始は1951年)。また、この夏に日本に接近した台風は6個で、このうち5個は8月に接近した。

平均気温：沖縄・奄美でかなり高く、北・東・西日本でも高かった。

降水量：北日本でかなり多く、西日本太平洋側でも多かった。一方、沖縄・奄美で少なかった。東日本、西日本日本海側では平年並だった。

日照時間：北・東日本日本海側、西日本、沖縄・奄美で多かった。北・東日本太平洋側では平年並だった。

秋(9~11月):

西日本と沖縄・奄美の気温は記録的な高温となった

西日本では降水量がかなり多かった

全国的に日照時間が少なく、西日本では記録的な寡照となった

北日本は低温だった

シベリア付近の冷たい高気圧と日本の南東海上の暖かい太平洋高気圧が共に強く、日本付近はこの2つの高気圧の間に挟まれ、低気圧や前線などの活動が活発だった。このため、秋の日照時間は、全国的に少なく、北日本日本海側、東日本太平洋側、西日本ではかなり少なかった。特に、西日本日本海側では平年比74%、西日本太平洋側では平年比82%となり統計を開始した

1946年以降で最も少ない記録を更新した。また、秋の降水量は西日本ではかなり多く、東日本太平洋側、沖縄・奄美で多かった。特に、秋の前半は台風が西日本にたびたび接近・上陸したため、西日本日本海側の降水量は平年比173%となり統計を開始した1946年以降で最も多い記録を更新した。

秋の気温は、西日本と沖縄・奄美では北からの寒気の影響が弱く、9月から10月を中心に南からの暖かい空気が流れ込んだためかなり高く、沖縄・奄美では平年差+1.3となり統計を開始した1946年以降で最も高い記録を更新し、西日本では平年差+1.2となり2007年と並んで統計を開始した1946年以降で最も高い記録となった。一方、北日本では9月は高温となったが、10月からは断続的に大陸からの強い寒気が流れ込んだため、2002年以来14年ぶりに低温となった。

平均気温：西日本、沖縄・奄美でかなり高く、東日本で高かった。北日本で低かった。

降水量：西日本でかなり多く、東日本太平洋側、沖縄・奄美で多かった。北日本では少なかった。東日本日本海側では平年並だった。

日照時間：北日本日本海側、東日本太平洋側、西日本でかなり少なく、北日本太平洋側、東日本日本海側、沖縄・奄美で少なかった。

4 全国気候表 2016年(12月20日までのデータによる)

地点名	平均気温(平年差)		降水量(平年比)		降水日数 1mm	日照時間(平年比)	
	()	()	(mm)	(%)		(h)	(%)
札幌	9.6	(+0.3)	1265.5	(119)	145	1795.5	(105)
稚内	7.1	(0.0)	1413.5	(137)	173	1394.1	(94)
北見枝幸	6.4	(0.0)	1476.0	(132)	177	1545.0	(101)
旭川	7.7	(+0.4)	1326.0	(131)	168	1590.9	(101)
留萌	8.5	(+0.4)	1118.5	(103)	161	1530.2	(100)
羽幌	8.4	(+0.4)	1394.0	(113)	186	1492.4	(95)
岩見沢	8.4	(+0.4)	1440.5	(129)	160	1669.8	(99)
倶知安	7.6	(+0.3)	1539.5	(109)	186	1450.8	(100)
小樽	9.1	(+0.2)	1318.5	(111)	161	1666.1	(104)
寿都	9.3	(+0.3)	1103.0	(97)	158	1416.9	(100)
網走	7.1	(+0.2)	1174.5	(153)	125	1903.0	(104)
紋別	6.8	(+0.1)	1059.5	(134)	135	1656.7	(98)
雄武	6.1	(+0.1)	1215.0	(143)	151	1651.4	(100)
釧路	7.4	(+0.8)	1475.5	(144)	109	1993.8	(104)
根室	7.1	(+0.5)	1289.0	(129)	103	1824.3	(101)
帯広	7.7	(+0.5)	1230.0	(141)	100	2012.4	(102)
広尾	8.0	(+0.8)	2039.5	(122)	120	1840.3	(104)
室蘭	9.4	(+0.5)	1293.5	(111)	139	1757.4	(103)
小牧	8.4	(+0.5)	1495.5	(127)	114	1765.7	(106)
浦河	8.8	(+0.5)	1283.0	(121)	117	1962.9	(109)
函館	10.0	(+0.5)	1127.5	(101)	129	1796.4	(105)
江差	10.7	(+0.3)	1132.0	(97)	149	1482.2	(103)
青森	11.3	(+0.6)	1315.5	(105)	163	1601.7	(101)
深浦	11.5	(+0.4)	1467.0	(103)	148	1475.4	(102)
むつ	10.5	(+0.7)	1350.0	(103)	141	1588.0	(100)
八戸	11.2	(+0.7)	1007.0	(100)	86	1868.8	(103)
秋田	12.8	(+0.8)	1739.0	(106)	163	1648.7	(109)
盛岡	11.6	(+1.0)	1292.5	(104)	119	1790.5	(108)
大船渡	12.5	(+0.9)	1590.0	(104)	101	1813.6	(107)
宮古	11.7	(+0.8)	1444.0	(111)	87	1950.8	(106)
仙台	13.8	(+1.1)	1208.0	(97)	90	1847.6	(106)
石巻	12.8	(+0.9)	1057.0	(100)	90	1962.0	(104)
山形	13.1	(+1.0)	1232.5	(109)	125	1662.2	(105)
新庄	12.0	(+0.9)	1798.5	(100)	181	1502.5	(114)
酒田	13.8	(+0.8)	1751.5	(96)	183	1630.0	(106)
福島	14.5	(+1.2)	1167.5	(101)	92	1782.4	(105)
若松	13.3	(+1.2)	1035.0	(88)	122	1695.8	(107)
白河	12.8	(+1.0)	1268.5	(90)	95	1795.9	(103)
小名浜	14.8	(+1.1)	1317.5	(94)	97	2123.8	(107)
水戸	15.1	(+1.1)	1408.5	(105)	95	1992.8	(107)
館野	15.2	(+1.1)	1387.0	(109)	100	1912.2	(103)
宇都宮	15.1	(+1.0)	1580.5	(107)	105	1864.7	(101)
日光	8.3	(+1.1)	1871.0	(87)	124	1770.3	(103)

地点名	平均気温(平年差)		降水量(平年比)		降水日数 1mm	日照時間(平年比)	
	()	()	(mm)	(%)		(h)	(%)
前橋	15.9	(+1.0)	1235.0	(99)	96	2058.0	(101)
熊谷	16.2	(+0.9)	1292.0	(101)	98	1999.3	(101)
秩父	14.4	(+0.9)	1339.0	(101)	95	1889.1	(103)
東京	16.7	(+1.0)	1749.5	(115)	110	1780.3	(98)
大島	17.2	(+0.9)	2731.5	(98)	122	1750.9	(100)
三宅島	18.6	(+0.7)	3290.0	(113)	144	1646.7	(98)
八丈島	18.8	(+0.8)	3391.0	(108)	188	1522.2	(111)
父島	24.3	(+1.0)	1001.0	(80)	106	2019.0	(101)
千葉	17.1	(+1.1)	1588.5	(116)	104	1794.6	(97)
銚子	16.7	(+1.0)	1916.0	(117)	114	1949.4	(102)
館山	16.9	(+0.7)	1802.5	(102)	104	1777.0	(94)
勝浦	17.0	(+1.0)	2278.0	(117)	117	1804.3	(97)
横浜	17.1	(+1.0)	1944.0	(116)	113	1868.0	(98)
長野	13.5	(+1.2)	884.5	(96)	88	1979.5	(104)
松本	13.4	(+1.2)	1150.5	(112)	90	2057.1	(101)
諏訪	12.5	(+1.1)	1506.5	(118)	110	2118.3	(102)
軽井沢	9.4	(+0.9)	1346.0	(109)	106	1953.5	(104)
飯田	14.2	(+1.1)	1735.5	(109)	106	2056.0	(105)
甲府	16.0	(+1.0)	1083.5	(96)	94	2119.8	(100)
河口湖	12.0	(+1.1)	1403.5	(90)	111	1868.7	(99)
静岡	17.8	(+0.9)	2331.5	(101)	105	2027.4	(100)
浜松	17.8	(+1.2)	1976.5	(110)	103	2172.4	(101)
御前崎	17.6	(+0.9)	1984.5	(97)	106	2204.6	(102)
三島	17.2	(+1.0)	2013.5	(108)	108	1870.5	(99)
石廊崎	17.5	(+0.6)	1903.0	(108)	101	2149.8	(104)
網代	16.9	(+0.6)	1973.0	(101)	112	1642.1	(94)
名古屋	17.3	(+1.1)	1638.0	(108)	111	2103.5	(103)
伊良湖	17.4	(+1.1)	1660.0	(105)	105	2186.4	(102)
岐阜	17.3	(+1.1)	1948.5	(108)	109	2069.3	(102)
高山	12.7	(+1.3)	1661.0	(100)	120	1655.4	(104)
津	17.2	(+1.0)	1755.5	(112)	112	2082.0	(104)
上野	15.8	(+1.3)	1453.0	(107)	106	1847.1	(108)
尾鷲	17.2	(+0.8)	3396.5	(89)	129	1877.3	(99)
四日市	16.2	(+1.1)	2074.0	(121)	116	1932.0	(101)
新潟	14.8	(+0.6)	1433.5	(82)	156	1717.5	(106)
相川	14.9	(+0.7)	1423.0	(98)	166	1755.4	(109)
高田	14.7	(+0.8)	2761.5	(106)	180	1595.3	(102)
富山	15.5	(+1.1)	2247.5	(101)	165	1654.1	(104)
伏木	15.2	(+0.9)	2063.5	(97)	159	1689.0	(106)
金沢	16.0	(+1.0)	2263.5	(98)	167	1774.5	(107)
輪島	14.6	(+0.8)	2191.5	(108)	167	1661.6	(107)

地点名	平均気温(平年差)		降水量(平年比)		降水日数 1mm	日照時間(平年比)	
	()	()	(mm)	(%)		(h)	(%)
福井	15.9	(+1.0)	1928.5	(90)	157	1706.3	(107)
敦賀	16.7	(+1.1)	1930.0	(95)	144	1663.4	(108)
彦根	16.1	(+1.1)	1585.5	(103)	118	1977.3	(110)
京都	17.4	(+1.2)	1790.0	(121)	108	1802.3	(104)
舞鶴	15.8	(+0.9)	1948.5	(109)	148	1562.1	(103)
大阪	18.0	(+0.8)	1398.0	(110)	103	2081.2	(107)
神戸	18.1	(+1.0)	1323.0	(110)	94	2069.3	(102)
豊岡	15.7	(+1.1)	1940.0	(99)	156	1520.9	(104)
姫路	16.6	(+1.0)	1525.5	(128)	100	1980.2	(100)
洲本	16.5	(+0.8)	1710.0	(123)	92	2026.7	(100)
奈良	16.3	(+1.1)	1436.0	(110)	107	1848.7	(104)
和歌山	18.0	(+1.0)	1470.5	(113)	98	2114.3	(104)
潮岬	18.4	(+0.9)	2708.5	(108)	113	2174.3	(102)
岡山	16.9	(+0.4)	1479.5	(135)	91	1953.6	(99)
津山	15.0	(+1.0)	1621.5	(116)	113	1689.9	(97)
広島	17.5	(+0.9)	2067.5	(135)	106	1863.9	(93)
呉	17.5	(+1.0)	1875.5	(137)	96	1912.8	(95)
福山	16.7	(+1.0)	1513.5	(136)	92	1994.7	(97)
松江	16.2	(+1.0)	1674.0	(96)	147	1638.0	(98)
西郷	15.3	(+0.8)	1986.0	(114)	140	1713.6	(99)
浜田	16.6	(+0.8)	1821.0	(111)	142	1726.8	(100)
鳥取	16.3	(+1.1)	1679.0	(91)	155	1687.5	(103)
米子	16.3	(+1.0)	1731.0	(100)	145	1705.8	(100)
境	16.4	(+1.0)	1861.5	(101)	146	1659.2	(98)
徳島	17.8	(+0.9)	1694.0	(117)	103	2048.7	(100)
高松	17.8	(+1.2)	1261.0	(118)	88	1984.0	(99)
多度津	17.5	(+0.9)	1358.5	(128)	95	2093.9	(102)
松山	17.9	(+1.1)	1542.5	(119)	107	1885.7	(95)
宇和島	18.1	(+1.0)	1952.0	(119)	112	1917.3	(101)
高知	18.4	(+1.1)	2751.5	(108)	121	2043.6	(98)
宿毛	18.4	(+1.2)	2618.5	(134)	124	2064.6	(101)
清水	19.4	(+0.9)	2980.5	(121)	129	2145.0	(100)
室戸岬	17.8	(+0.9)	3472.0	(150)	126	2130.3	(101)
山口	16.8	(+1.0)	2426.5	(130)	126	1747.6	(94)
下関	17.9	(+0.9)	2012.0	(121)	119	1750.0	(95)
萩	16.8	(+1.0)	2116.0	(129)	132	1694.8	(100)
福岡	18.3	(+1.0)	2353.0	(148)	129	1795.7	(98)
飯塚	17.0	(+1.0)	2455.0	(140)	134	1710.8	(95)

地名	平均気温(平年差)		降水量(平年比)		降水日数 1mm	日照時間(平年比)	
	()	()	(mm)	(%)		(h)	(%)
大分	17.9	(+1.2)	2183.0	(133)	99	1867.1	(96)
日田	17.1	(+1.3)	2418.0	(135)	127	1698.7	(96)
長崎	18.4	(+0.9)	2229.0	(121)	123	1748.2	(96)
厳原	16.9	(+0.8)	2369.0	(107)	97	1708.4	(94)
平戸	17.3	(+0.9)	3037.0	(145)	110	1635.7	(93)
佐世保	18.3	(+1.0)	2674.5	(138)	118	1852.6	(99)
雲仙岳	14.1	(+1.0)	3465.0	(121)	130	1304.7	(92)
福江	17.9	(+0.8)	2522.0	(109)	129	1589.2	(92)
佐賀	18.1	(+1.3)	2538.0	(137)	117	1821.9	(95)
熊本	18.3	(+1.0)	2440.0	(124)	124	1881.3	(96)
阿蘇山	12.2]	()	3563.0]	()	121]	1112.0]	()
人吉	17.0	(+1.2)	3120.5	(131)	133	1646.2	(92)
牛深	19.1	(+0.8)	2427.0	(124)	121	1859.5	(97)
宮崎	18.8	(+1.1)	2926.0	(117)	120	1987.5	(97)
延岡	17.9	(+1.0)	2920.0	(128)	123	2045.2	(99)
都城	18.0	(+1.2)	3597.0	(147)	131	1738.9	(92)
油津	19.3	(+0.8)	3694.5	(143)	131	1852.1	(97)
鹿児島	19.9	(+1.0)	3250.0	(145)	129	1887.5	(99)
阿久根	18.5	(+1.0)	2954.0	(145)	119	1869.4	(97)
枕崎	19.3	(+1.0)	2924.5	(136)	130	1864.1	(99)
屋久島	20.5	(+0.9)	4861.5	(110)	175	1489.3	(99)
種子島	20.7	(+0.9)	2933.5	(126)	139	1784.6	(101)
名瀬	22.7	(+0.9)	2657.0	(96)	182	1360.6	(102)
沖永良部	23.5	(+1.0)	2167.5	(121)	135	1875.8	(102)
那覇	24.3	(+1.1)	2365.0	(118)	143	1714.4	(99)
名護	23.8	(+1.0)	2268.0	(114)	154	1726.1	(100)
久米島	24.2	(+1.1)	2843.0	(137)	155	1724.1	(100)
宮古島	24.8	(+1.0)	2668.5	(135)	153	1778.8	(102)
石垣島	25.4	(+1.0)	2107.0	(102)	152	1817.9	(100)
西表島	24.9	(+1.1)	2361.5	(105)	146	1717.4	(100)
与那国島	24.8	(+0.8)	3007.0	(131)	145	1600.1	(103)
南大東島	24.5	(+1.1)	1763.5	(114)	136	2144.6	(103)

- (注) 1. これらは12月20日までの観測値を使った集計結果である。
2. 値の横に] がある場合(資料不足値)には、統計期間内のデータに欠測等統計に
用いなかった値が含まれているので注意されたい。
3. 平年差(比)は同期間の日別平年値を平均・合計したものに對する差(比)である。

5 平年差（比）が観測史上1位を上回っている地点

（12月20日までのデータによる）

過去の平年差（比）と同値は「＝」で表す。

年平均気温の平年差が最高値を上回っている地点

地点名	2016年(12月20日まで)			これまでの最大 平年差(西暦年)	開始年
	平年差	値	平年値*		
福島	+1.2=	14.5	13.3	+1.2 (2015)	1889
若松	+1.2=	13.3	12.1	+1.2 (1990)	1954
白河	+1.0=	12.8	11.8	+1.0 (2015)	1940
小名浜	+1.1=	14.8	13.7	+1.1 (1990)	1911
館野	+1.1=	15.2	14.1	+1.1 (2015)	1921
日光	+1.1=	8.3	7.2	+1.1 (1998)	1944
前橋	+1.0=	15.9	14.9	+1.0 (2015)	1896
父島	+1.0	24.3	23.3	+0.8 (1998)	1968
千葉	+1.1=	17.1	16.0	+1.1 (2004)	1966
勝浦	+1.0	17.0	16.0	+0.8 (1990)	1906
長野	+1.2	13.5	12.3	+1.0 (1990)	1889
松本	+1.2	13.4	12.2	+1.0 (2004)	1898
諏訪	+1.1	12.5	11.4	+0.9 (2004)	1945
飯田	+1.1	14.2	13.1	+1.0 (1998)	1897
河口湖	+1.1=	12.0	10.9	+1.1 (2004)	1933
浜松	+1.2	17.8	16.6	+1.1 (2004)	1882
三島	+1.0=	17.2	16.2	+1.0 (2004)	1930
名古屋	+1.1	17.3	16.2	+1.0 (2004)	1890
岐阜	+1.1=	17.3	16.2	+1.1 (2004)	1883
高山	+1.3=	12.7	11.4	+1.3 (1998)	1899
上野	+1.3	15.8	14.5	+1.2 (1998)	1938
富山	+1.1=	15.5	14.4	+1.1 (2004)	1939
福井	+1.0=	15.9	14.9	+1.0 (2004)	1897
敦賀	+1.1=	16.7	15.6	+1.1 (2004)	1897
彦根	+1.1=	16.1	15.0	+1.1 (1998)	1893
京都	+1.2=	17.4	16.2	+1.2 (1998)	1880
豊岡	+1.1=	15.7	14.6	+1.1 (2004)	1918
奈良	+1.1=	16.3	15.2	+1.1 (1998)	1953
鳥取	+1.1=	16.3	15.2	+1.1 (1998)	1943
高松	+1.2=	17.8	16.6	+1.2 (1998)	1941
松山	+1.1=	17.9	16.8	+1.1 (1998)	1890
宿毛	+1.2=	18.4	17.2	+1.2 (1998)	1943
大分	+1.2	17.9	16.7	+1.0 (2007)	1887
日田	+1.3=	17.1	15.8	+1.3 (1998)	1942
佐世保	+1.0	18.3	17.3	+0.9 (2007)	1947
佐賀	+1.3=	18.1	16.8	+1.3 (1998)	1891
西表島	+1.1	24.9	23.8	+0.8 (1998)	1955

（注）これらは12月20日までの観測値を使った集計結果であるので、年末までのデータを加えた確定値では変わる可能性がある。

値の横に「＝」がある場合（資料不足値）には、統計期間内のデータに欠測等統計に用いなかった値が含まれている。順位は極値順位以上になることは

確定であるが、統計値の使用に際しては注意されたい。

平年値（*）は日別平年値を平均・合計したものである。

平年値とは1981～2010年の30年間の値を平均したものである。